

社団法人 日本循環器学会  
2009 年度評議員会 議事録

日 時 2010 年 (平成 22 年) 3 月 5 日 (金) 18 時 30 分 ~ 20 時 00 分  
場 所 国立京都国際会館 2 階 第 9 会場 (Room A)  
〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422 番  
TEL : 075-705-1234 (大代表)

評議員現在数 : 250 名  
出席評議員数 : 218 名 (委任状出席 31 名)  
欠席評議員数 : 1 名  
その他出席者 : 名誉会員 16 名、特別会員 16 名

・ 議 事

- 第 1 号議案 新理事・新監事の選出
- 第 2 号議案 2009 年度事業報告  
2007・2008 年度会費未納による退会会員報告
- 第 3 号議案 2008 年度決算報告 (追認)
- 第 4 号議案 2009 年度収支予算の修正
- 第 5 号議案 2010 年度事業計画及び収支予算の承認
- 第 6 号議案 2010 年度就任新評議員・新正会員代表の報告
- 第 7 号議案 循環器専門医制度について
- 第 8 号議案 委員会報告
- 第 9 号議案 新名誉会員・新特別会員の承認
- 第 10 号議案 第 75・76 回学術集會会長挨拶  
第 77 回学術集會会長の承認
- 第 11 号議案 その他

・ 議事の経過及び結果

定刻になり、第 74 回北徹会長から評議員現在数及び出席評議員数を報告、定数を満たしたので会議の成立が確認され、定款第 26 条の定めにより堀会長が議長となり開会。資料にある 24 名の物故会員に対し黙祷が捧げられた。

続いて議長から議事録署名人に小川聡理事と鄭忠和理事を指名し了承され、議事に入った。

第 1 号議案 新理事・新監事の選出

議長から、2010 年度就任の理事及び監事について、選挙を行う旨指示があった。地区別定数による連記・無記名投票の結果、2010 年度就任の理事及び監事が次の通り選出された。なお任期は 2010 年 3 月 7 日から 2011 年度総会開催日までである。

< 外科系理事 > 高本眞一、澤 芳樹

< 支部選出理事 > 筒井裕之、下川宏明、青沼和隆、和泉 徹、島田和幸、永井良三、水野杏一、伊藤隆之、室原豊明、山岸正和、木村 剛、小室一成、平田健一、松原弘明、松崎益徳、土居義典、小川久雄、鄭 忠和

< 監 事 > 磯部光章、斎藤能彦

新理事長は、新理事による互選の結果、松崎益徳理事が選ばれた旨報告された。なお定款第 26 条の定めにより、関東甲信越地区における最下位当選理事である青沼和隆先生は、2010 年 3 月 7 日から 2011 年 3 月 19 日まで小川聡第 75 回会長と交代し、小川聡先生が理事となる。

以上について、全会一致で承認された。

第 2 号議案 2009 年度事業報告

2007・2008 年度会費未納による退会会員報告

議長から、2009 年度における事業の概要について、資料のとおり報告された。続いて、2007・2008 年度会費が未納である会員 322 名について経過が説明され、これらの会員の退会について全会一致で承

認された。

#### 第 3 号議案 2008 年度決算報告（追認）

議長から、資料 27～34 ページまでの一般会計、専門医特別会計、学術集会特別会計、支部特別会計及び地方会特別会計の 2008 年度会計について、昨年 6 月理事会にて承認され、会告にて会員へ通知している旨報告があり、全会一致で追認された。

#### 第 4 号議案 2009 年度収支予算の修正

議長から、事業や内容の見直しに伴い行った、資料 35～42 ページの収支補正予算について、今年 1 月理事会で承認された旨説明があり、全会一致で承認された。

#### 第 5 号議案 2010 年度事業計画及び収支予算承認

議長から、資料 43～54 ページの 2010 年度事業計画及び収支予算について、今年 1 月理事会で承認された旨説明があり、全会一致で承認された。

#### 第 6 号議案 2010 年度就任新評議員・新正会員代表の報告

議長から、65 歳定年制により 2009 年度で退任する評議員および正会員代表の補充として選出された 2010 年度就任評議員および正会員代表が資料の通り報告され、全会一致で承認された。

#### 第 7 号議案 循環器専門医制度について

土居委員長から下記の通り報告があった。

2010 年 4 月 1 日認定となる循環器専門医は資料のとおり 598 名である。

2010 年度に指定及び指定更新となる研修・研修関連施設は資料のとおり新規が研修施設 43 件、研修関連施設 44 件と更新が研修施設 523 件、研修関連施設 122 件である。

日本睡眠学会を 2010 年度 4 月 1 日より関連学会として認定する。

「認定更新に関する規程」の改定を資料のとおり行なう。変更点は次のとおりである。

1) 認定更新に必要な研修単位の加算対象条件をより明確にするために、規程に加算対象条件を追記する。

2) 規定変更の場合に運用を速やかに行なうため、最終承認機関を評議員会から理事会へ変更する。

以上について全会一致で承認された。

#### 第 8 号議案 委員会報告

##### 1) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

日本のガイドラインを海外に発信するため、ガイドラインダイジェスト版の英文化を進めており、海外に発信する意義の高いものを基準に順次作成を進めている。2009 年度は 4 班分を作成する。

日本の循環器系データベースの構築として、今後も循環器疾患診療実態調査を継続していく。循環器専門医研修/研修関連施設の回答率は 90%を超える回答率が上昇した。

日本のエビデンス構築のため次の 2 点を実施している。

1) 大規模臨床試験の後援(循環器領域におけるわが国の臨床研究を推進するため)

2) Translational Research 振興事業(臨床応用・実用化の直前にある最先端の循環器基礎的研究等の日本の先進医学研究振興に寄与すること目的とするため)

以上について全会一致で承認された。

##### 2) WCC 招致委員会

松森委員長から以下の通り報告があった。

WCC2010(中国・北京)プログラム委員会が 2009 年 12 月に北京で開催され、WCC プログラム委員として松森昭委員長と WCC の SPC 委員として小川聡委員が出席した。

WCC2012 年開催の最終候補都市は、ケープタウン、ドバイ、京都、メキシコ、シンガポールの 5 都市となり、2009 年 10 月開催の WHF 理事会において開催都市決定のプロセスが明らかとなった。2010 年 1 月には WHF 学術集会担当者の視察訪問があり、WHF において最終段階での検討中である。但し、2010 年 2 月末までに WHF から正式回答がなかったため、2012 年開催は辞退することとなった。

また、2014 年の招致活動、WCC 招致委員会発足については、次期理事会において活動有無の判断を

委ねることとなった。  
以上について全会一致で承認された。

### 3) 編集委員会

下川委員長より下記の通り報告があった。

編集委員会では、Circulation Journal (CJ) の学術レベル、Impact Factor (2008年: 2.387) の向上、国際化を目標としている。

2009年7月から International Associate Editor (IAE) 11名に就任頂き、国際化と査読の強化を図った。

2009年の投稿論文数は、1,015編であり、質の高い論文が増えている。また採用から発刊までの期間が100日前後まで改善された。約半数が海外からの投稿であり、欧米からの投稿の割合が増加しつつある。

2009年より、以下の新たな取り組みをスタートした。

(1)2009年4月よりCJ本誌を希望者のみに発送し、大幅な費用削減を実現した。

(2)Vol.74 No.1より、全頁カラー化し、論文の視覚的なレベルアップを図った。なお、印刷方法の変更により掲載料のカラー料金は無料化された。

(3)2009年10月より Supplemental file の受付を開始し、動画を含めオンラインのみで公開している。それに伴い、Images in Cardiovascular Medicine を新設した。

(4)CJ 目次 Newsletter を、国内及び海外約5,000人への配信を開始した。

(5)地方会抄録オンライン化を実施。検索機能のついた利便性の高いものとなった。

(6)日循及びAHA 学術集会期間中に、IAEを含めた国際編集会議を開催することとした。

(7)Controversy in Cardiovascular Medicine を新設し、総説として掲載していくこととした。

昨年に続き、Best Reviewers of the Year 10名を選考、副賞と感謝状を贈呈した。

例年通り Circulation Journal Awards にて Clinical Investigation 2名、Experimental Investigation 2名を選考し、副賞と感謝状を贈呈した。

以上について、全会一致で承認された。

以上の委員会報告および資料に掲載されている他の委員会報告について、一括して承認された。

### 第10号議案 新名誉会員・新特別会員の承認

議長から、友池仁暢先生を2010年度の特別会員として理事会が推薦している旨報告があり、全会一致で承認された。

### 第11号議案 第75・76回学術集會会長挨拶及び第77回学術集會会長の承認

#### 1) 第74回学術集會会長挨拶

第74回学術集會北徹会長から以下のとおり報告があった。

国立京都会館及びグランドプリンスホテル京都で開催する。

基礎医学から臨床へ、臨床医学から基礎医学という双方向での情報交換、最終的には患者様の診断、病態解明、治療へと結びつけることを願い、「知の集約による真理の探求 基礎と臨床の融合」をテーマとした。

#### 2) 第75回学術集會会長挨拶

第75回学術集會小川聡会長より以下のとおり報告があった。

会期は2011年3月18日(金)~20日(日)、パシフィコ横浜で開催する。メインテーマは「世界を先導する循環器病学をめざして」とした。

美甘レクチャーは Michael D. Schneider 先生、真下記念講演は御子柴克彦先生に決定した。

参加事前登録システムを導入する。初日の受付混雑、およびランチョン・ファイアサイドセミナーのチケット購入の混雑緩和を解消することが目的のひとつである。参加費は事前登録で従来通りの15,000円、オンサイト登録はあえて20,000円とさせていただく。これは参加費値上げの趣旨ではなく事前登録の利用を促進するための対応であり、先生方のご理解・ご協力をいただきたい。

他、資料として第75回学術集會案内チラシ(A4版)が配布された。

#### 3) 第76回学術集會会長挨拶

第76回学術集會鄭忠和会長から2011年度開催の挨拶があった。

4) 第 77 回学術集会会長の承認

議長から、理事会は第 77 回学術集会会長として水野杏一先生（日本医科大学付属病院内科学第一）を推薦していることが報告され、全会一致で承認された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長が長時間の協力に謝辞を述べて閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長ならびに議事録署名人、これに署名押印する。

2010 年 3 月 5 日

社団法人 日本循環器学会 2009 年度評議員会

(署名)

(捺印)

議長 北 徹

議事録署名人 小 川 聡

同 鄭 忠 和

(以下余白)